



京都第一赤十字病院

日本赤十字社

人間を救うのは、人間だ。Our world.Your move.

Japanese Red Cross
Kyoto Daiichi Hospital

第一日赤 90年の歩み、変わらぬ使命

例年のキッズセミナーを拡大開催したり、
その他90周年に記念してイベントを企画しております！

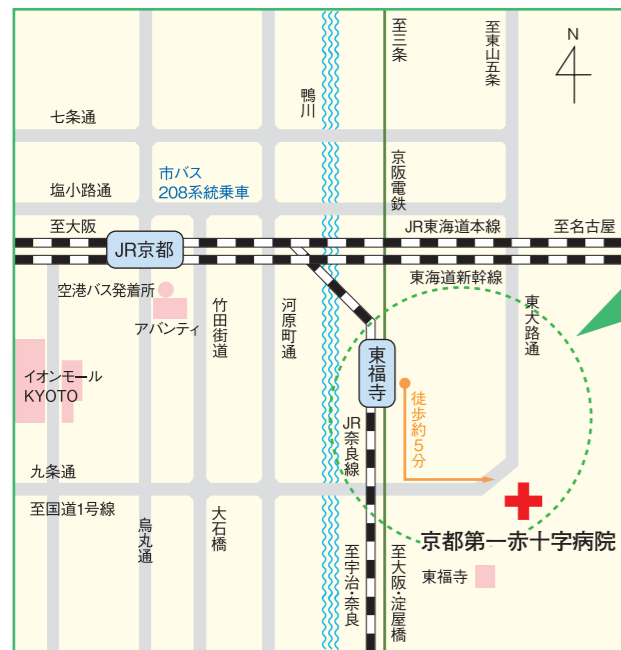
えうご期待！



© 京都第一赤十字病院

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】… 京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】… 国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】… 竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280
FAX.075-533-1282

絆

泉山長老
俊朝

京都第一日赤だより

き す な

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

夏号

2024年7月発行
vol. 92



夏真っ盛り。皆様いかがお過ごしでしょうか。令和6年度は医師の働き方改革や、診療報酬改定などトリプル改定が施行され、医療界にとって変化の年とも言えるものとなりました。当院においても長年にわたって牽引された院長・副院長が退任し、vol.91春号でご挨拶申し上げた大辻英吾院長が就任をいたしまして、早々に、平素お世話になっている皆様方との連携をさらに深め、医療安全をしっかりと進めていくよう指示があったところです。

さて、当院は今年11月に創立90周年を迎えます。北丹後地震など相次ぐ災害によって救護基

地等の必要性が高まる中、昭和9年11月に現在地で「日赤京都府支部病院」として開院。戦後の接收中は東山七条での仮診療という時期もありましたが、救命救急センターや基幹災害医療センターなど多くの機能を加えながら一貫して地域の基幹病院としての役割を果たしてまいりました。育てていただいた地域の皆様にあらためて感謝申し上げます。これからも先人達から受け継いだ赤十字の精神に基づき安心していただける適切な医療を行うという理念を次代に伝えながら、まずは100年に向かって歩みを進めてまいりますので、引き続きご指導賜りますようお願い致します。

事務部長 綾城 義治



KONDO
HIDEHITO

小児地域医療の砦

今年4月から、小児科副部長に就任いたしました、近藤秀仁と申します。2009年に当院で専攻医として、小児科医研修をスタートしました。2013年から5年間は大阪大学小児科で希少疾患の研究・診療や診断のための遺伝子検査、出生前診断に関する遺伝カウンセリングなどに携わっていました。2018年からは、当院で再び勤務させていただいております。当院での勤務は10年を越えましたが、10年前と比べると、京都市内の小児科病床数は減少し、特に小児救急医療において、地域医療における当科の役割はますます大きくなってきていると感じています。専門診療への従事だけでなく、当院小児科を盛り上げていける様に、チーム一丸となって努力する所存です。皆様にはご協力をお願いすることが多々ありますが、ご支援のほどよろしくお願いたします。

最近ハマっていること
登山
数年前から登山を始めました。日本百名山踏破を目指しています。

小児科 副部長
近藤 秀仁

GREETINGS OF THE APPOINTMENT

就任のご挨拶

MORI DAICHI



患者さんに優しい治療を目指して

この度、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の副部長に就任しました森大地です。私は2010年に京都府立医科大学を卒業し、福知山市民病院や京都府立医科大学附属病院での勤務、大学院を経て2018年に当院に赴任しました。私の専門は頭頸部外科で、甲状腺腫瘍などの良性腫瘍から口腔咽喉頭癌などの悪性腫瘍など幅広い疾患に対して、手術を中心に放射線治療や化学療法など多様な治療を行っています。

近年我々が特に力を入れているのが低侵襲治療です。頭頸部癌は発生する部位の特性上、治療によって嚥下機能や発声機能が低下してしまうことがあります。当科では放射線治療による喉頭温存や咽喉頭癌に対する経口切除など、治療で生じる患者さんのQOL低下を少しでも軽減できるよう努力しています。頭頸部癌治療は我々頭頸部外科医だけでは成り立たず、多くの診療科や他職種との連携が欠かせません。今後ともチーム一丸となって地域医療に貢献していきたいと思っておりますので、ご協力の程宜しくお願致します。

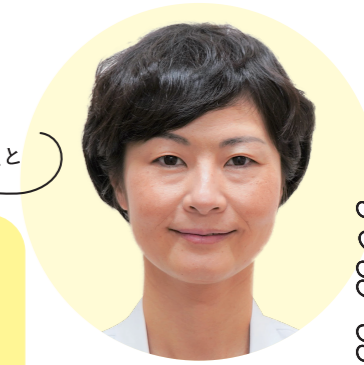
最近ハマっていること
剣道
学生時代以来ブランクがありましたが昨年から再開し、日々精進しています。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 副部長
森 大地

最良の乳癌個別化治療

乳癌外科の大橋まひろです。立命館高校出身です。平成18年に京都府立医科大学を卒業後、府立医大病院、鞍馬口病院、山城総合医療センター、静岡厚生病院などで臨床に従事し、昨年、当院に医長として赴任しました。大きな病院、慣れないシステム、忙しい環境に右往左往する一年でしたが、この度、副部長を拝命し身が引き締まる思いです。多忙の部長のサポート、若い先生達のフォロー、また、日赤の優秀な研修医達に乳癌外科の魅力を伝えて次の世代をリクルートすることが役割と考えています。乳癌治療は近年すごいスピードで進化していますが、最新の知見をアップデートするだけでなく、各科の先生方、看護師・薬剤師・検査技師・医療スタッフ・院内外の皆様との連携があって初めて、最良の治療選択ができると考えています。より個別化された質の高い乳癌治療を患者さんに提供できるよう尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いたします。

最近ハマっていること
一昔前の漫画
未読の名作がたくさん！MASTERキートン、BLUE GIANT、のだめカンタービレetc…是非オススメ教えてください。



乳癌外科 副部長
大橋 まひろ

OHASHI
MAHIRO



ともに歩む整形外科医療

2024年4月から第一整形外科部副部長に就任しました吉原靖です。私は1978年生まれ滋賀県彦根市出身で、2004年に富山医科薬科大学を卒業し、初期研修を経て2006年から京都府立医科大学整形外科に入局しました。2013年1月から当院へ赴任し今年で12年目となります。救急整形外科に長らく携わりながら、現在は膝関節外科を専門とし、半月板損傷や膝靭帯損傷、変形性膝関節症を代表とする慢性疾患など小児から高齢者まで幅広く対応しています。人工膝関節手術に関しては本年度から手術支援ロボットの導入も開始しており、新しいtechnologyも取り入れていますが、手術に関しては一人一人のニーズや人生観など十分に対話することを重要視し、患者さんにとって有意義な治療を選択できるよう心掛けています。高齢者手術も多くなる中でハイリスク症例や併存疾患に他科と連携し、院内対応しやすいこと、人工関節周囲骨折等にも早期対応しやすいことなども当院の強みと考えています。地域から信頼して紹介頂けるような医療を目指し精進してまいりますので、何卒よろしくお願申し上げます。

最近ハマっていること
バスケットボール
スラムダンクやW杯の盛り上がり触発され学生時代に熱中したバスケットを院内クラブで再開しています。

YOSHIHARA
YASUSHI

第一整形外科部 副部長
吉原 靖

NARUKAWA
TSUKASA



地域の先生方から信頼され、患者さんに最善の医療を提供できる医師を目指して

令和6年3月から赴任しました、泌尿器科の鳴川司と申します。私は2008年に京都府立医科大学を卒業し、2年間の初期研修の後に同大学の泌尿器科に入局しました。入局後は公立南丹病院（現在の京都中部医療センター）・国立がん研究センター中央病院レジデント・福知山市民病院・済生会吹田病院・京都府立医科大学附属病院で泌尿器科診療に従事してきました。泌尿器科診療一般、前立腺癌・膀胱癌・腎癌などの泌尿器がん診療を専門としています。医師17年目にして、初めての日赤病院勤務となります。

泌尿器疾患は癌だけでなく、患者さんのQOLに直接かかわる排尿・蓄尿障害など、携わる疾患は多岐にわたります。地域医療を担う先生方から信頼される泌尿器科医を目指して、今後も患者さんにとって最善の医療を提供できるように心がけていきたいと思っています。

長らくハマっていること
読書
最近はいっぱいスマホを見がちですが、活字に触れる機会を持つように、読書を趣味にしています。

泌尿器科 副部長
鳴川 司

OHASHI
MAHIRO

令和6年

能登半島地震 活動を 経験して

令和6年1月1日に発生した能登半島地震において、当院は発災直後より京都府DMAT調整仮本部を設置し、引き続きDMAT3隊、赤十字救護班5班を派遣しました。今回派遣されたチームの多岐にわたる活動を報告します。京都でも今後いつ災害が発生するかわかりません。災害発生時、京都府の基幹災害拠点病院として迅速に活動できるような日々取り組んでいます。これからもご支援・ご協力の程、よろしくごお願い申し上げます。

基幹災害医療センター長
医療社会事業部長
高階謙一郎



現地の様子



帰院した救護班の集合写真

看護師 ころのケア班
NICU 看護師長 清水 美紀子

ころのケア班として

発災6週目の2月13日から輪島市役所の中に開設されている「ホットルーム」を引き継ぎ、ハンドマッサージや足浴、肩ケア等を通して市役所職員や輪島市在住支援者の「ころのケア」活動させて頂きました。市役所職員の方は仮設住宅の準備や復興に向けた終わりの見えない職務に追われ、毎日遅くまで勤務をされていました。避難食中心で野菜不足が続くため高血圧の方が多く、医師に繋ぎ投薬や対応策について相談させて頂きました。また巡回診療を行う中で地域医療への移行に向けた準備を進めていきました。

初めての救護活動であるメンバーが多く各々不安を抱えていたと思いますが、被災者や支援者の皆さんから「ありがとう」という言葉を頂き、逆に支えられた部分がありました。被災地の一日も早い復興を心より願っております。



ホットルーム

日赤救護班 人事課 係長 平田 捷

主事(業務調整員)のミッション

当院救護班の第1班として、1月11日~15日の間、輪島市にて、主に避難所の巡回診療を行いました。

私は主事(業務調整員)として救護班に構成され、医師や看護師と共に、巡回診療に同行し診療補助業務や、避難所運営の方に現状や問題点をヒアリングして、本部へ報告を行いました。

トイレ環境が劣悪な避難所には災害用トイレの設置も行いました。また、今回主事として大きなミッションの一つとなったのが緊急車両の運転でした。土砂崩れ、家屋倒壊、道路ひび割れで、想像を絶する悪路な上に、積雪凍結の日もあり、交通渋滞は酷く、安全運転には細心の注意を払いました。

今後も多様化する課題に対して継続的な支援が必要だと感じたとともに、被災地の1日でも早い復興をお祈りいたします。



現地道路の様子

コーディネーターチーム 会計課 課長補佐 柿本 雅彦

令和6年能登半島地震への 日赤災害医療CoT(コーディネーターチーム) 派遣活動報告

期間：1月8日(月)~12日(金)
構成：医師1名・業務調整員2名

私たちは日赤石川県支部災害対策本部の指示のもと、輪島市保健医療福祉調整本部で日赤災害医療CoTとして1月8日~12日まで活動してきました。日赤災害医療CoTとは災害時に効果的・効率的に関係機関との連携及び救護班の活動調整等を実施するチームです。

今回の活動としては輪島市保健医療福祉調整本部の避難所部門で巡回診療、避難所救護所運営等、地元医師会、JMAT、DMAT等関係団体と調整を行いながら輪島市内に派遣される日赤救護班の活動調整、市中心部の避難所担当エリアリーダーとして活動を行いました。

現地では土砂崩れによるアクセスの問題が支援・復旧への大きな障害となっており、支援の難しさを痛感しました。今後も被災地に寄り添った支援が継続できるよう活動できればと思います。



会議中のスタッフ

DMAT救急科 救命病棟部長 堀口 真仁

被災地で見たリアル

各チームのミッションには大きく二つありました。一つは輪島市や珠洲市など奥能登の被害が激しい地域に伺い、避難所の調査や巡回診療を行うことです。もう一つは金沢市内のDMAT活動拠点や二次避難所を運営し、医療や福祉の機能がダウンした奥能登から搬送されてくる大量の避難者の方達を受け入れ、必要ならば適切な医療を受けられるように調整することです。

被災者の方と接すると、「自宅が倒壊した」「家族と連絡が取れていない」など報道で見聞きするのは桁違いにリアルな現実と向き合うことになり、胸が締め付けられるようでした。

現在も能登半島は復興途上です。DMATや救護班はひとつの方法ですが、赤十字職員としてできることをして、みんなで支援していければいいと考えています。そして、今回の経験を次の災害への備えに活かしていきたいと思っています。



一時避難者待機ステーション

派遣メンバーの 心の支えになったお声

避難所となっていた体育館や公民館では、

「お薬がもらえて安心した」

「症状が出てきて心配だったけど診察してもらえてよかった」

「日赤さん来てくれたんやね」

臨床検査技師紹介

あなたの知っている「検査部」、
それはほんの一部に過ぎないのかもしれない・・・!

細菌検査係長
岩本 久美

【最近ハマっていること】

トイブードルを飼い始めました。
節々に自分を人間と思っている
仕草が気になるものの
可愛らしいです(笑)。



こんにちは!検査部です。検査部は浦田検査部・病理診断科部長、小園技師長のもと臨床検査技師48名、看護師4名、事務員6名が働いています。さらに今年度より、池田前院長を検査部医務嘱託医師としてお迎えし、3人の新人も採用していただくなど賑わいを見せています。

「検査」といっても、検体検査系に生理検査系、病理検査に輸血検査と専門は多岐に渡ります(図)。認定等の資格取得数も年々増加しており、それぞれが専門性を活かし、さらに大半が複数部門を掛け持ちで業務に励んでいます。検査室にこもって検体や試験管と睨めっこ・そんなイメージ(ないですか?)も今は昔。外来採血や生理検査で患者さんと接することはもちろん、DMATやICT、NSTなどにも参加させていただき、有難いことに他部署の皆さんと一緒に仕事させていただく機会も増えてきています。

当院の検査部で忘れてはならないのが「ISO15189」の認定を取得していることです。これは国際規格に基づき臨床検査室の技術能力を証明するもので、国際標準検査管理加算の算定項目にもなっています。今でこそ全国200施設を超える病院検査室が取得している認定ですが、2015年当時、京都

では2病院目という早さでした。現在も継続して定期審査をpassし続けており(とても厳しいです!)、「検査の質」に対する意識の高さ、またPDCAシステムをもって改良し続けている体制は、検査部一丸となっているからこそ。検査データひとつとっても、本当に信頼できる値なのかどうか、これが担保されている「検査の質」の追求は、患者さんの治

療に大きく関わってくるといえます。

そんな検査部では今、秋に控えている検体検査機器更新にともなうC棟2階フロアの検査室大改築に向けて日々準備に取り組んでいます。新検査部に乞うご期待を!

検査部一同、これからも質の高い検査を迅速にお届けできるよう精進してまいりますのでどうぞよろしくお願い致します!

	課長(各1名)	係長・主任(各1名)
技師長 副技師長	病理診断科	病理組織検査係 病理細胞診検査係
	検査1課	生化学検査係
		血液検査係
		臨床検査精度管理係
	検査2課	心肺機能検査係
		脳波検査係
		心臓超音波検査係
		腹部等超音波検査係
	検査3課	生体機能検査係
		細菌検査係
		一般検査係
	輸血部	輸血検査係

図 検査部・輸血部・病理診断科 組織構成(当院ホームページより)

病院の紹介予約をスムーズに オンライン予約 スタートしました!

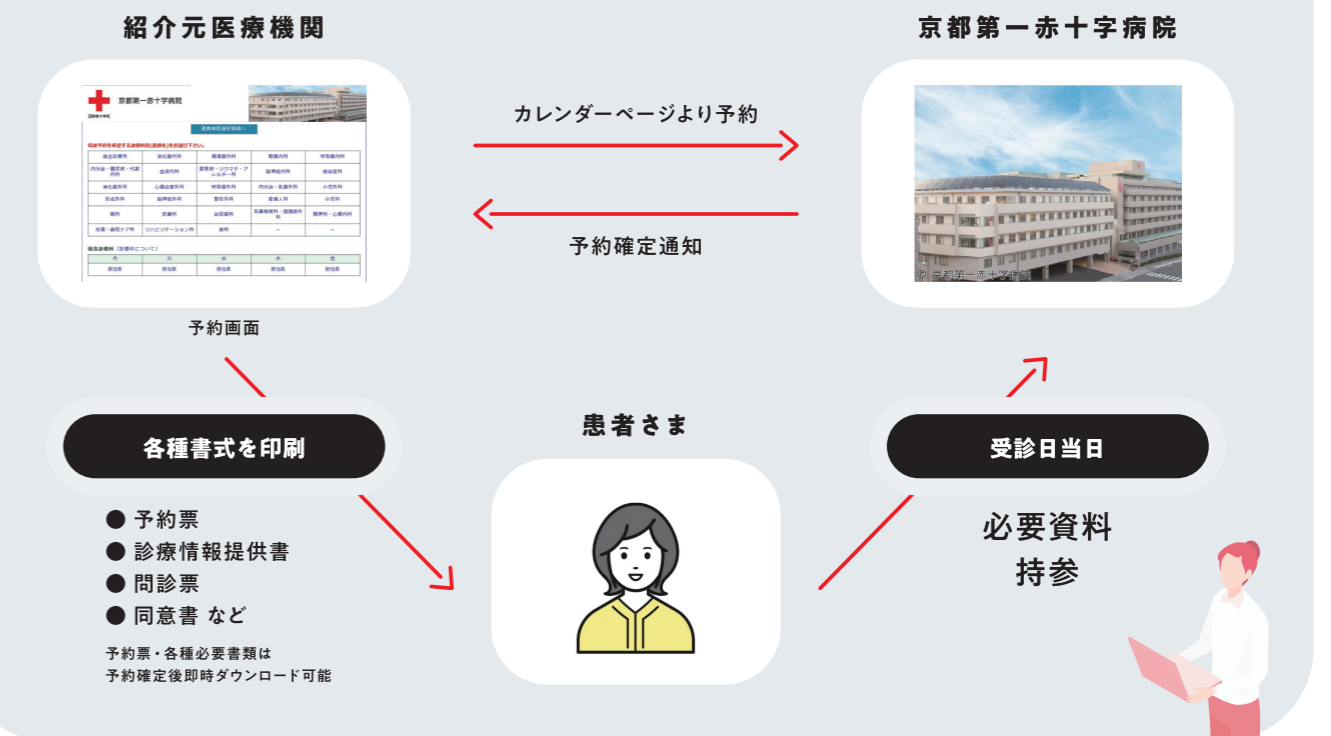
紹介予約を効率的に実施

地域の医療機関と当院をつなぐ新しい政策、
ぜひご利用ください



ONLINE
RESERVATION

予約の流れ



サクッと案に!
SAKU洛連携説明会動画

